巻頭言

グローバルリーダーシップ研究所
比較日本学教育研究部門長
古瀬　奈津子

本部門では、毎年国際日本学シンポジウムおよび国際日本学コンソーシアムを開催している。今まで国際日本学シンポジウムは、７月初めの土日に２日間にわたって開かれてきた。しかし、2019年度の第21回国際日本学シンポジウムは１日で行うことになった。主に経済的な理由によるのだが、国際日本学シンポジウムは新しい時代を迎えたとも言えよう。

私は３月で定年を迎えるので、ここで、私と国際日本学シンポジウムおよび国際日本学コンソーシアムの関係について振り返っておきたい。シンポジウムの方は、1999年の大学院改組によって大学院博士後期課程に国際日本学専攻が設置された際に開始された。本学の国際日本学は、国際的視野の中で日本研究を進め、総合学としての日本学を世界に発信することを目的としている。その後、2006・07年度には魅力ある大学院教育イニシアティブ、2008―10年度には大学院ＧＰに国際日本学を中心とした本学のプログラムが採択され、それを機に国際日本学コンソーシアムも行われるようになった。これらの実績に基づき、2004年には比較日本学教育研究センターが設置され、2017年度からグローバルリーダーシップ研究所に統合されて今日に至っている。

私自身は国際日本学シンポジウム発足時は主体的に関わっていたわけではなく、逆に当初は７月初めが関係している学会の夏期シンポジウムと重なっていたため、国際日本学シンポジウムにはあまり参加できなかった。それが定年に至るまで関係することになるとは予想できないことであったが、国際日本学のような考え方に触れ、自分の研究を日本学として相対化することができて、今となってはよかったと思っている。

また、発足当時の国際日本学シンポジウムは大学院あげての行事だったので、関係者も広い分野にわたっていた。現在は部門員が主に行うことになっており、それが負担になっている側面もあるが、学会主催とは異なり、自由な形式で国際シンポジウムを開催することができることは恵まれた環境であるとも言える。もう少し広い分野の方たちにもシンポジウムを計画していただくのもよいかと思う。国際日本学シンポジウムが活況あるものになることを期待したい。

国際日本学コンソーシアムの方も、本学の教員（部門員）が次々に定年を迎えているように、コンソーシアムを形成している他の大学でも教員の新旧交代が行われている。そのため、当初の目的や運営方法が忘れられているところもある。ただし、昔のやり方を引き継ぐことだけがよいのではないので、コンソーシアムに新しい大学・研究機関を迎え入れたり、内容を刷新することも考えられるのではないだろうか。

以上のように、思いもかけず国際日本学シンポジウムとコンソーシアムに深入りすることになってしまったが、国内外の多くの方たちからご協力をいただいて、国際日本学シンポジウムと国際日本学コンソーシアムを開催してこられたことに心より感謝申し上げる。どうもありがとうございました。そしてこれからの発展をお祈り申しあげたい。

2020年３月